

仙台二中 防災だより

第5号

令和5年度 第5号
令和5年7月20日発行

発行者 防災主任

1・2年生の防災学習

6月24日（土）に開催された地域合同防災訓練の数日前に全学年で仙台版防災教育副読本『3.11から未来へ』を使った学習を行い、訓練当日も1・2年生は各教室で防災学習に取り組みました。防災教育副読本を使った学習後に、1年生はクロスロード・ゲーム、2年生は学区内の災害リスクを調べました。

1年生の防災学習



副読本を使った防災学習
「絆を力に」



クロスロード・ゲームとは、阪神・淡路大震災で神戸市の職員が実際に直面した「災害対応のジレンマ」をカードゲーム化したものです。ルールは、設問に対し Yes か No かを決めるだけで、クロスロードに正解はなく、様々な考え方がある中で結論を出して事を進めなければならないことを感じるゲームです。当日出されたものを一つ紹介します。

あなたは市民

大型で非常に強い台風が近づいてきています。30分前に「避難勧告」が仙台市から出され、近所の人たちがどんどん避難所へ避難を始めています。あなたの家でも避難所へ行くことになりました。さて、家で飼っている犬と一緒に避難所へ連れて行きますか。

連れて行く人→Yes 連れていかない人→No

ほとんどの生徒が災害を自分事としてとらえ、意見交換を行いながら防災の意識が高まったことや、災害対応の場面やそれぞれの立場で様々な意見や価値観があることに気付くことができたということがアンケートの結果からうかがうことができました。

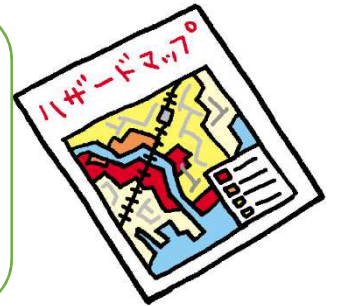
自分の命と他の人の命、動物の命と迷惑などの苦しい選択をする際に正しい判断ができるようになりたいと思った生徒や、万一災害にあったときも他の人の行動を理解し合い、認め合い、協力し合うことがとても重要になってくるのではないかと考えを深めた生徒もいました。

(裏面に続きます)

2年生の防災学習

2学年は、1年生の校外学習で石巻市震災遺構の旧大川小学校や雄勝地域を、今年5月の野外活動では栗原市にある荒砥沢地すべりのジオパークを見学し、自然災害について学ぶことができました。副読本を使った学習では、「勇気と希望を持って」という内容から、仙台市内の中学生が避難所で実際に行った活動について調べました。その後、一人一人 Chromebook を使い、「仙台くらしのマップ」というハザードマップのサイトで学区周辺の避難所や災害の危険箇所を調べました。

- ・津波浸水区域
- ・土石流、地すべりなどの土砂災害危険区域
- ・洪水による浸水想定区域
- ・過去に浸水被害が発生した区域
- ・下水道などの排水施設的能力を超えた場合に想定される内水氾濫想定区域



この学習を終えた生徒の感想の一部を紹介します。

- ・学区内では山や川などの自然がいっぱいあることが分かり良いことだと思ったが、その反面、山や川などは台風や地震などがあると、洪水や土砂災害を引き起こすことがあるので、災害が起こったときに気を付けて行動したいと思う。大きい川があるので洪水の被害にあう範囲が広いと思った。
- ・今まで洪水や浸水は川岸とか土砂崩れは山だけみたいな考えだったけど、ハザードマップを見てこんなところでも災害が起こりそうなことに気づき、改めてハザードマップの重要性を感じた。
- ・自分の家の周りにはあまり危険な場所がなかったけど避難所が少ないため混んでいた場合も考えて避難所がどこにあるかを知ることができてよかった。
- ・自宅周辺は広瀬川に近く洪水や浸水被害が起こる可能性がある。だから、この学習で自宅周辺の避難所を調べたところ複数箇所あったことが分かったが、通学路には少ないので気を付けたい。

アンケートの結果を見ると、今回の学習を通して自分が住む地域における防災意識が高まった記述内容が多く見受けられました。

訓練後には木町通連合町内会から長期保存が可能なペットボトル飲料水と羊羹をいただきました。

今年度の反省や課題を基に、地域や関係機関の方々の御意見をいただき、今後更に充実した訓練に発展できればと考えています。東北福祉大学や地域の皆様、関係者の皆様の御協力に心より感謝申し上げます。

